

【出席率】 会員63名中42名

【先々週の出席率】 89. 83%

【先週のメイクアップ】

10/3 三条RCへ 西巻克郎君 若井 博君
10/10 三条RCへ 西巻克郎君 若井 博君
10/10 地区ガバナー連絡会議へ
馬場信彦君 葦澤喜一郎君 鈴木 武君
10/11 三条東RCへ馬場信彦君



会長挨拶

坪井 正康 副会長



会長の坂本さん、エレクトの吉井さん、ともにご欠席です。私、副会長の坪井がご挨拶申し上げます。本日は、三条クラブから熊倉さん、石月さん、ようこそいらっしゃいました。最後までごゆっくりとお過ごし下さい。

今年の気候はおかしくて9月まで真夏を思わせる様な暑い日が続きましたが、ここに来て急に涼しくなり、この寒暖の差で体調をくずされる方がたくさんおられます。皆さんにはどうかお気をつけいただきたいと思います。

先日、私は両国にある大江戸博物館で開かれている「文豪夏目漱石展」を見て来ました。昔、漱石にかぶれたこともあり、非常に大きな興味をもって見て参りました。今年、漱石が大学を辞めて朝日新聞に入社し、文筆活動一本になってからちょうど100年経つそうです。実筆の生原稿、書簡、学生時代の試験の答案など、興味深いものが沢山ありました。漱石がロンドン留学中に生活費を切り詰めてまで購入した本なども展示されていました。これらの資料の殆どは東北大学の図書館に漱石文庫として保管されています。何故、出身校の東大でなく、東北大学なのか分からなかったのですが、漱石の弟子の小宮豊隆さんが戦火から資料を守ろうと最初、東大に寄附を申し出たのだそうです。ところが、東大では全部分類して分けて保管するとのこと、それでは資料がバラバラになってしまうということで、自分が教授をしていた東北大学に一括寄贈し、保管することになり、漱石とは縁のない仙台に移管されたのだそうです。

国際ロータリー会長

ウィルフリッドJ. ウィルキンソン [カナダ]

第2560地区ガバナー 渡辺 敏彦 [新潟南]

第4分区AG 藤井 三明 [分水]

会 長 坂本 洋司

幹 事 船久保孝志

S A A 大 溪 秀 夫

事務局

〒955-8666 三條市旭町2-5-10
三條信用金庫本店内

☎0256-35-3477 Fax 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL <http://www.sanjo-minami.jp>

これが昭和17年のこと、昭和20年の東京大空襲で漱石の家は全焼してしまいましたので、もし移管していなければ、全部なくなっていたわけです。小宮先生達に我々は感謝しなければいけないと思います。

司馬遼太郎は言っていますが、明治以降の日本文学に多大な貢献をした漱石の一番の功績は、それまで文語体だった小説を「我輩は猫である」で初めて我々の日常使っている口語体を書くようにして読み易くしたことであると感謝しています。そういう偉大な、そして大好きな漱石の遺したものを直に見ることができ感激、久しぶりに充実した一日でした。11月18日までやっていますので、興味のある方はぜひ見て来られたら良いと思います。

今日は、田中久作先生の卓話です、楽しみにしております。宜しく願い申し上げます、会長代理の挨拶を終わります。

幹事報告

船久保 孝志 幹事

●渡辺ガバナー事務所より

地区大会（11月18日）にご出席のRI会長代理 南園義一氏の投稿記事が「ロータリーの友」10月号 横組P32 に掲載されています。ご一読下さい。

委員会報告

○親睦委員会 銅冶 康之 委員長

秋の味覚例会のご案内

と き 11月 5日（月） 午後6時30分～

と ころ 松 木 屋 （☎ 34-5252）

会 費 3,000円

キャンセル 当日AM10:00までにご連絡下さい。それ以降は会費ご負担いただきます。

今回は会員のみ「秋の味覚例会」とさせていただきます。

楽しい語りとおいしい秋の味、おいしいお酒を心ゆくまでどうぞ・・・*



～ 10月15日 19,000円 今年度累計 329,000円 ～

三条RC

熊倉君

田中久作先生の卓話拝聴に参りました。

坪井君

今日、会長代理を務めます。宜しく願い致します。

田中久作先生の卓話、期待しております。

船久保君

田中先生、卓話宜しく願い致します。

田中（久）君

本日、卓話当番です。よろしく願い致します。

木原君、佐藤

（秀）君、田代君、馬場（一）君、馬場（信）君、武藤君

田中久作先生、卓話ご苦労様です。楽しみにしております。

吉田（秀）君

一昨13日は旧制長岡中学の同期会で痛飲。260名中死亡等で連絡のとれるのが半分に、出席は26名でした。

鈴木（圀）君

○10月6日に父の三回忌の法要を行いました。

○本日の卓話、田中先生ご苦労様です。

石山君、大原君、草野君、野中君、野水君、渡邊（久）君

ボックスに協力致します。

嘉瀬君

久しぶりにニコニコを担当致しました。ご協力ありがとうございました。



今日は、私の4年間の海軍生活の中で忘れることの出来ない体験をお話ししたいと思います。

それは、昭和19年3月12日の未明、南太平洋上での戦でありました。63年以上前のことです。皆さんの中には未だ生まれておられない方もお出でになると思います。太平洋戦争も遠い歴史物語となりました。

当時の私は、巡洋艦に乗艦しておりました。そんな大きな船ではありません。3,300トン、長さ140mで、乗組員は270名です。最大速力は30ノット（時速55km）という巡洋艦です。

陸軍の兵隊をサイパン島へ輸送する船の護衛艦として、横須賀の軍港から出発した時でした。全部で10数隻の船団でした。当時は、アメリカの潜水艦が軍港付近で日本の艦船を狙って待ち受けており、油断がありませんでした。

その日、私はハンモックで休みました。未明にドカン！！という強い衝撃と共にハンモックもろ共床へ叩き落とされました。やられた！と咄嗟に思いました。然し、体に海水を感じなかったので大丈夫だと直感しました。案の定、船は停止し、艦内騒然となりました。機関室が魚雷にやられ、30名位の機関兵が木端微塵に吹き飛ばされました。艦は浸水により左舷に傾き始めました。それからというもの艦内総員で排水作業に振り回されました。

場所は八才島の沖合いでしたので横須賀から曳航の海防艦が救助に来るということで、それまで何とか沈没させない為尽力をつくしたのですが、数時間後、遂に後部から沈みはじめ、アッという間に海底の藻屑と消えてしまいました。

海軍では、船が沈没した場合、着ている物は身から離してはならないと教育されており、泳ぎ辛くとも堪えなければなりません。海水の温度を自分の体温と着ている物で温めない海水はどんどん流れているので、短時間に身体が冷え切ってしまいます。更に海の中では体力を消耗しないことがなによりなのです。ですから、泳いだりしないで、なるべく浮流物につかまってじっとしていることが第一ということになります。

という訳で、海に投げ出された乗員は浮流物にすがり、お互いに呼び合いながらばらばらにならないよう救助の船を待ちました。然し、波長の大きい太平洋の真っ只中で長時間浮いていることは、大変な体力を消耗します。例え物につかまっておってもです。潮はどんどん流れておるのです。川の中と異なって大きなうねりがある為、戦友の姿が見えなくなったと思うと、遙か遠くの方に忽然と現れたりします。中には海に投げ出されて浮流疲れで体力が続かず海底に沈んでいった戦友が何人もおりました。

救助の海防艦が現れたのは、沈没してから5、6時間後でした。甲板に引き上げられてからは、張りつめた気力が一気にふっ切れ、横須賀に着くまで全く意識がありませんでした。

以上が、魚雷攻撃を受けた時の状況であります。

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

I 真実か どうか

III 好意と友情を深めるか

II みんなに公平か

IV みんなのためになるか どうか